

優秀賞

高校生部門〈受験〉

鹿児島県立武岡台高等学校 1年

新村 未夢

## 自分の道を生きぬく力

私は、中学三年生の冬、二つの道で悩んでいました。その道というのは、「進路」の道です。三年になり、高校受験という大きな壁が目の前に立ちはだかり、自分で自分の道を決めなければならぬ時期がきました。私は、公立の中でも進学校といわれている高校を目標に日々勉強していました。

しかし、余裕で合格するほどの学力ではなく、ましてや不合格になる可能性の方が少し高かったです。私は母子家庭だったので、お金の免除がない限り、私立に行くことはもつと親に迷惑をかけてしまうということで頭がいつぱいでした。

そして、私立受験が終わり通知がきました。三校受験し、すべて合格できたうち、一つの高校で全額免除がもらえました。その科は、頭がいいという訳ではない普通の科でした。そのとき、二つの道が目の前に現れました。一つの道は、そのまま公立を受験すること、もう一つの道は、私立校にいき、公立受験をやめることでした。正直、私は私立校の方にいき簡単な道を選ぶことに心が揺れていました。早く楽になりたいという気持ちが、公立をあきらめたくないという気持ちとぶつかり、そのことを決める時間が少なかつたこともあり、追いつめられていました。

そんな時間の中で、相談しているとき必ず「自分がいきたい道にいけばいい」という言葉がでてきました。私は、二つの道を選ぶうえでもっとも大事な「自分が何をしたいか」ということを忘れかけていました。今まで目指してきた目標、その場所でやりたかったことを思いだし、公立を受験することに決めました。そして、合格することができ、現在に至っています。今でも、あのときの決断が正しかったのか分かりません。でも、自分の選んだ道を信じて進み続けるしかありません。あの決断、あの言葉がある今の私は、どんな困難も乗り越えられると思います。自分の道を生きぬく力の大切さを学んだ冬でした。